

研究課題：ステロイド依存性ネフローゼ症候群に対するシクロfosファミド後のミゾリ

ビン後療法の有効性の予測因子の検討

1. 研究の目的

ステロイド依存性ネフローゼ症候群に対してシクロfosファミドは効果が乏しいが、シクロfosファミド後のミゾリビン維持療法は有効となる可能性があります。しかしその有効性の予測因子や長期予後の検討は非常に少ないです。今回当院でミゾリビン維持療法を実施した症例において有効性の予測因子を検討しました。

2. 研究の方法

2007年1月から2021年12月までにステロイド依存性ネフローゼ症候群の診断となった患者様のうち、シクロfosファミド後のミゾリビン維持療法を受けた方が対象となります。診療録から年齢、性別、体格、病歴（ネフローゼ症候群発症時期・抵抗性や依存性など）、免疫抑制剤使用の有無・内容、経過中の再発の有無、経過中の重症感染の有無・詳細、ミゾリビン維持療法後の経過（再発の有無、回数、時期）等の情報を調べまとめます。

3. 研究期間

倫理委員会で承認を得られた日から西暦2022年7月1日まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

シクロfosファミド投与とミゾリビン維持療法に関して上記2.に記載したような項目を、カルテの記載および検体検査結果から調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：腎臓科 科長兼副部長 藤永周一郎

研究分担者：腎臓科 医員 遠藤翔太

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2022年7月1日にまで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）